

第4回融合委員会 プロセスと成果

第4回融合委員会の目的：「次期京都市基本計画第1次案の検討」

成果の概要

これまでの審議を踏まえて作成された「次期京都市基本計画第1次案」が検討されました。

次期京都市基本計画の構成を確認したうえで、都市経営の理念、未来像・重点戦略、分野別方針と行政経営の大綱について審議され、全体として概ね了承されました。



今後は、分野別方針をよりシンプルで分かりやすい表現に修正するなど、当日出された意見を踏まえ、文言等を修正し、第1次案が取りまとめられる予定です。

その後、5月下旬に第1次案が公表され、1箇月間パブリック・コメントが実施される予定です。

併せて、未来の担い手・若者会議U35の支援を受けながら、5月29日（土）にシンポジウムを開催するなど、第1次案の周知や市民の皆様からの意見聴取に取り組みます。

実施概要

日時 平成22年4月12日（月）午後6時15分から午後8時45分まで
 場所 京都ガーデンパレスホテル2F 祇園
 出席者 尾池会長、浅岡副会長、宗田融合委員会委員長、平井融合委員会副委員長（11名）
 乾委員（うるおい部会部会長）、秋月委員（活性化部会副部会長）
 西岡委員（すこやか部会副部会長）、塚口委員（まちづくり部会部会長）
 上村委員（まちづくり部会副部会長）、新川委員（未来の京都創造研究会座長）、
 松山委員（未来の担い手・若者会議U35議長）
 （事務局） 由木副市長、西村総合企画局長、柴山政策企画室長、大田京都創生推進部長

当日のプロセス

開会
本日の議事の説明

議事1
次期京都市基本計画の構成及び「第1次案」の表記方法の確認

議事2
未来像・重点戦略の検討

① 未来像について、浅岡副会長、乾委員、西岡委員から説明

② 意見交換

議事3
分野別方針及び行政経営の大綱の検討

① 各部会から説明
うるおい：乾部会長
活性化：秋月副部会長
すこやか：西岡副部会長
まちづくり：塚口部会長

② 意見交換

議事4
パブリック・コメント及びシンポジウムの検討

① 平井副委員長及び松山委員から補足説明

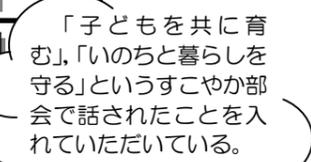
② 意見交換

閉会
尾池会長、由木副市長から総括

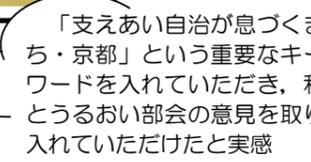


本日、皆様に御議論いただき、承認していただいたものを京都市基本計画第1次案として、5月下旬を目途に公表したい。

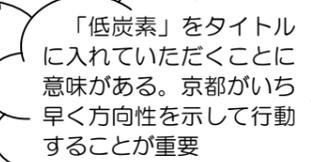
（都市経営の理念について）市役所の自治だけでなく、市民の自治というニュアンスが必要



「子どもを共に育む」、「いのちと暮らしを守る」というすこやか部会で話されたことを入れていただいている。



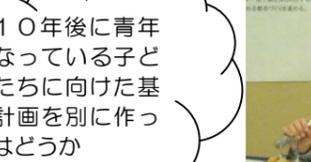
「支えあい自治が息づくまち・京都」という重要なキーワードを入れていただき、私とうるおい部会の意見を取り入れていただけたと実感



「低炭素」をタイトルに入れていただくことに意味がある。京都がいち早く方向性を示して行動することが重要



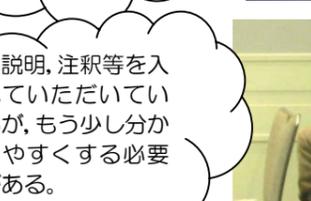
10年後に青年になっている子どもたちに向けた基本計画を別にとってはどうか



横文字を使わず、表現を分かりやすくすることが大切



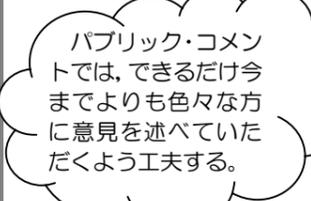
説明、注釈等を入れていただいているが、もう少し分かりやすくする必要があります。



政策指標だけが目立つのではなく、目指す姿を市民の皆様にご覧いただけるようなレイアウトが必要



行政経営の大綱に掲げる「地域主権時代」についてはしっかりと議論して使わないといけないのではないか



パブリック・コメントでは、できるだけ今までよりも色々な方に意見を述べていただくよう工夫する。



未来像を広く知っていただくとともに、御意見をいただくことに主眼を置き、あまり硬いシンポジウムとならないようにしたい。



本日の結果はこれまでの皆様の議論の賜物である。今日は、市の基本方針がまとまってきたという印象。シンポジウムなどで協力できることがあれば、どんどん協力したい。

京都市基本計画審議会第4回融合委員会における主な意見

意見の対象	意見の内容
1 全般	<ul style="list-style-type: none"> 「国際的MICE都市」など）記述をもう一息市民からみて分かりやすくする努力が必要
2 都市経営の理念	<ul style="list-style-type: none"> 自治の部分が「市役所の自治」に限定されている印象がある。市民自身が自主的、自立的に行動するというニュアンスが必要 「(未来像を共有し,) 実現への道筋を自ら創り出す」という表現でどうか。
3 未来像	
環境共生と低炭素のまち・京都	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素の観点は、「将来世代の安全のため」ということが一言必要 未来の命のための低炭素であるという説明が必要。
4 重点戦略	<ul style="list-style-type: none"> 重点戦略が他の9つと関連しているだけでなく、どういう部分で重なっているのかを示す方がよい。
歩いて楽しいまち・京都戦略	<ul style="list-style-type: none"> 車社会から完全に脱却するのは困難であるので、車社会との共存を図りながら歩くまちを実現するという視点を入れてもらいたい。
個性あふれる地域づくり戦略	<ul style="list-style-type: none"> 保全・開発・創造という大きな方針が京都全域で語られるのではなく、メリハリをつけてもらいたい。保全から外れて開発する地域もある、というニュアンスを入れてもらいたい。 岡崎や山ノ内だけ書くのではなく、「・・・を中心としつつ各地域がそれぞれ輝く」ということが書いてあるべき。
新産業創造戦略	<ul style="list-style-type: none"> 産業や支えあいという観点で見たときに、人を雇用する側だけの話だけでなく、被雇用者側の視点からの産業政策、雇用政策がもう一歩必要になってきているように思う。 被雇用者側から見た文言（「働き甲斐がある」「働く者が報われる」）を入れてほしい。
いのちと暮らしを守る戦略	<ul style="list-style-type: none"> 被雇用者側から見た文言（「働き甲斐がある」「働く者が報われる」）を入れてほしい。 安心・安全について、防災という文言を重点戦略の中に入れておくべき。 人の安心・安全と、まちの安心・安全の両面が感じられる表現にしてもらいたい。
5 分野別方針	<ul style="list-style-type: none"> シンプルに表現し、重要なものから書くというメリハリが必要 横文字が多くて、分かりにくいのではないか。 10年後に目指す姿を、見た目も分かりやすく整理すべき。政策指標は10年後を目指す姿を表すひとつの手段であるのに、目立ちすぎる。 政策指標は数字で表しやすいものと、表すのがふさわしくないものがある、との議論があったので、後日議論したい。 「市民と行政の役割分担と共汗」の記載は現状を脱していない。政策目標も5つの未来像を念頭に、現状の羅列ではなく、新しい発想で見直したものとすべき。
6 行政経営の大綱	<ul style="list-style-type: none"> 「地域主権時代」は「自分たちの社会を自分たちで作っていく」という精神であると解釈していたが、独立国になるかのような気概が感じられる。地域主権についてしっかり議論しないと、安易に用いられないのではないか。 「1-(3)国と地方の仕組みを変えるために」まで行くと違う意味に取られかねない。 例えば支出削減について、良いところだけでなく、マイナスの作用も提示すべき。
7 パブリック・コメント シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> 区計画審議会でも意見を聞いてはどうか。また、出前トークのように、出かけていって話せばどうか。